

川内村の帰還に向けた取り組みと課題



**震災前～
風光明媚なのどかな田園風景**



福島県川内村

村長 遠藤雄幸

福島県と川内村の位置関係



○
双葉郡は8町
村で構成され
電原供給地帯

人口67,000人

福島第一原子力
発電所6号機

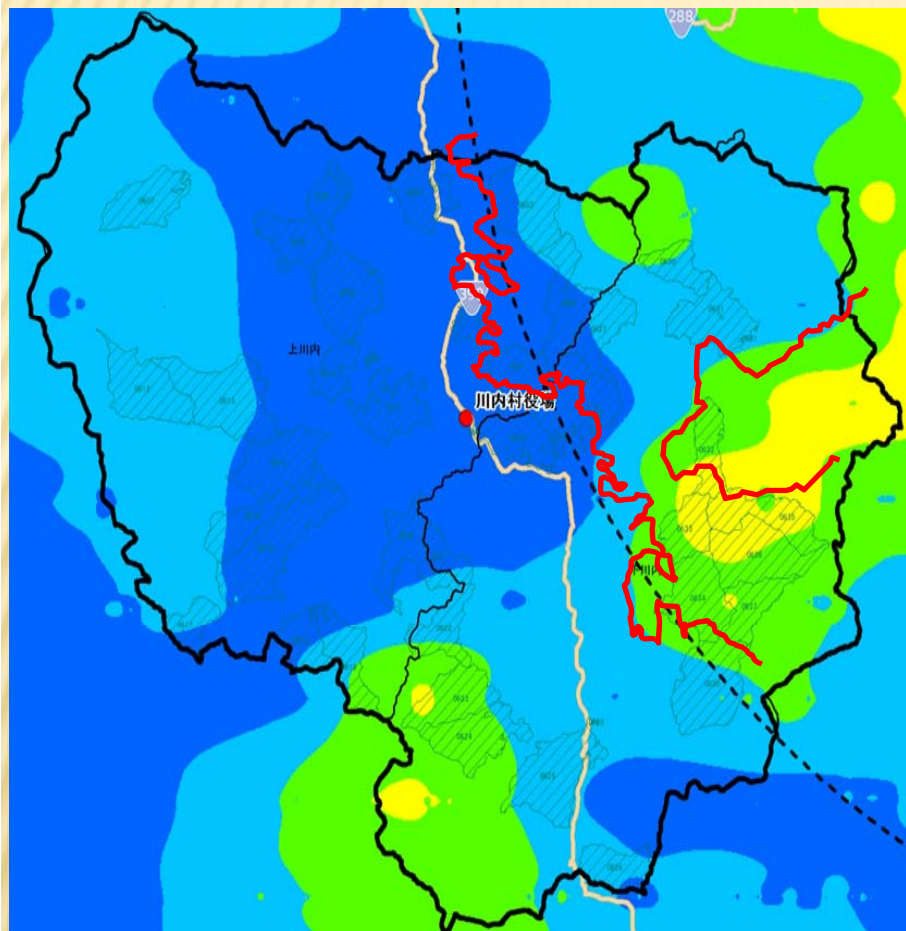
福島第二原子力
発電所4号機

広野火力発電所
6号機

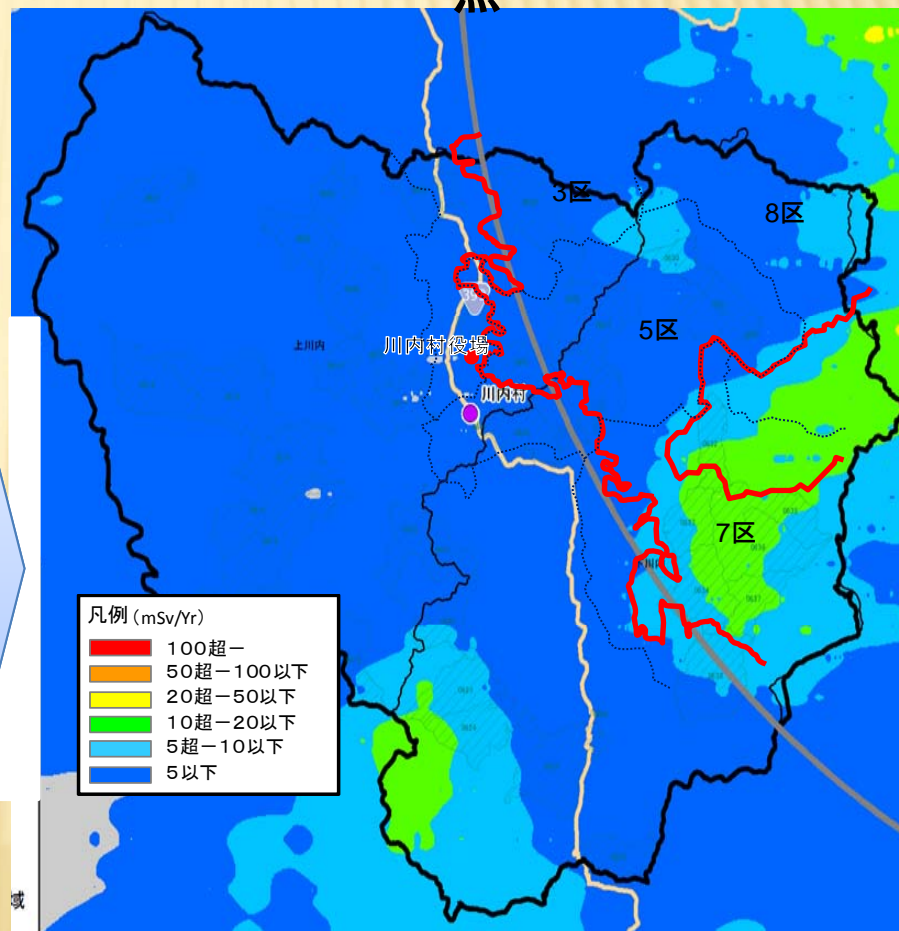
水力発電所
2号機

川内村の放射線量の状況

平成23年11月5日時
点



平成25年11月19日時
点



2年後

「帰村宣言」 2012年1月31日

～戻れる人から戻る

心配な人はもう少し様子を見てから戻る～

- 単に自分の家、自分の故郷へ戻るだけなのに、なぜこんなに難しいのか？
- 制約や制限するものではない。
- 行政機能を戻し帰村環境を整える。
- 震災前に戻ることが、復興ではない。

帰村・復興に向けた基本的方針

キーワード；選択・判断・自立

× ① 選択

- × 戻る、戻らないの選択を尊重する

× ② 判断

- × リスクの選択は個々が判断する。
- × リスク回避で生じる新たな課題への対処

× ③ 自立

- × 補償や損害賠償をしっかりと求めながら、それに依存しない新たな生活設計の支援

× 「具体的な取り組み」

× ①除染

× ②雇用の確保

× ③健康管理

× ④教育環境

× ⑤農林畜産業の再開

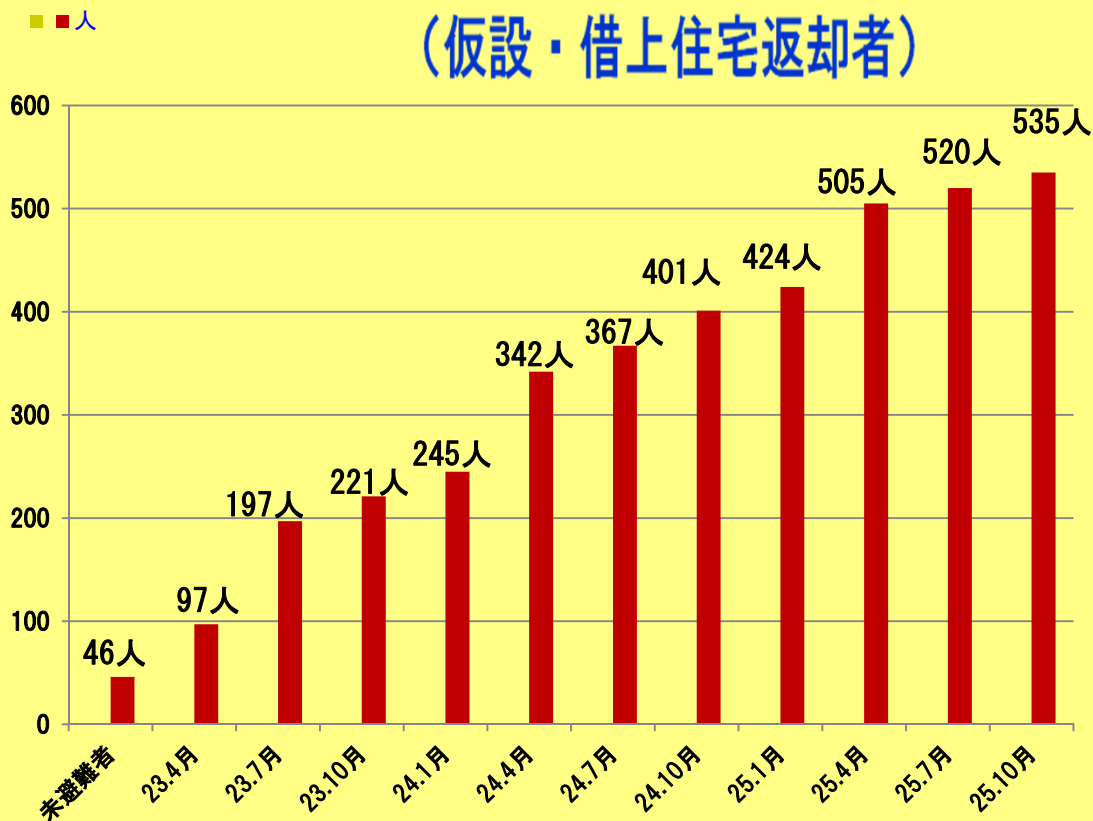
× ⑥生活していくためのインフラ整備

× ⑦補償・損害賠償

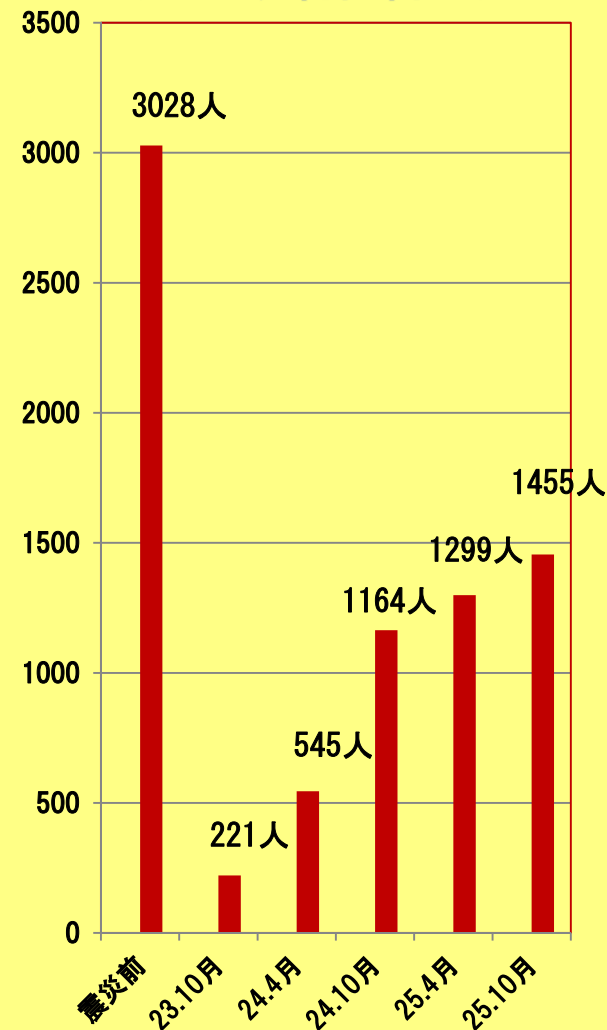
震災に伴う推移村の人口

徐々に増加しているものの厳しい環境！

震災後の完全帰村者の推移 (仮設・借上住宅返却者)



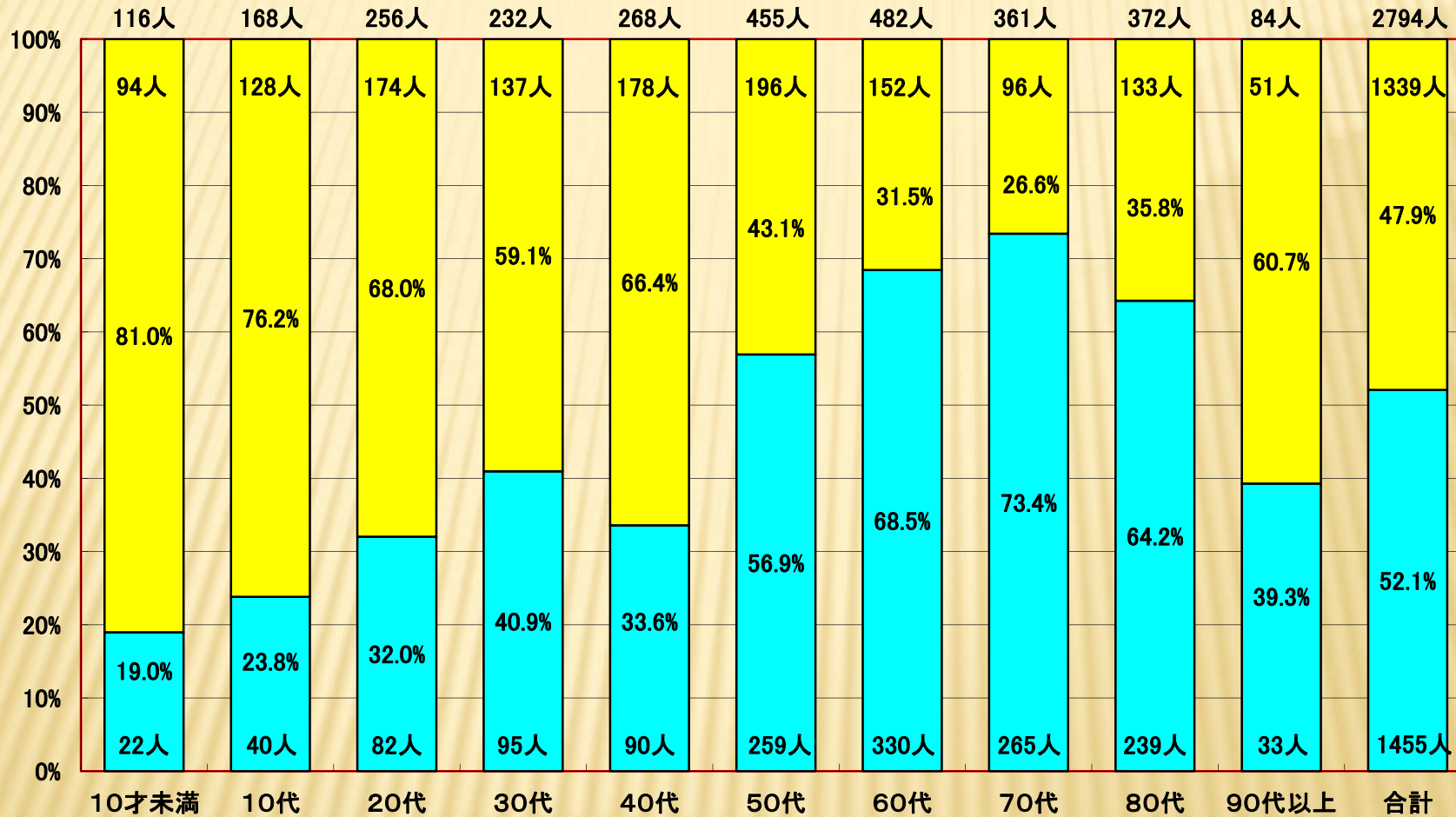
震災前後の人口推移 (二地域居住含む)



現在の帰村者の状況 (平成25年10月1日現在 1,455人)

■ 未帰村 (人/%) ■ 帰村 (人/%)

年代別帰村割合 (全体)



①50歳未満の帰村率は、31.6%に対して、50歳以上の帰村率は64.2%である。

②課題としては  若年層の帰村を促すためには、どうすればよいか？

帰村しない方の理由 (平成24年2月調査)

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1. 放射線による被害が怖いから | : 201人(19.35%) |
| 2. 医療環境に不安があるから | : 161人(15.50%) |
| 3. 生活環境(商店や福祉など)に不安があるから | : 135人(12.99%) |
| 4. 家に戻っても仕事が無いから | : 125人(12.03%) |
| 5. 子供が、避難先で通学しているから | : 110人(10.59%) |
| 6. 農作物などが栽培できないから | : 85人(8.18%) |
| 7. 警戒区域となっていることから | : 64人(6.16%) |
| 8. 仕事が避難先で見つかったから | : 62人(5.97%) |
| 9. その他 | : 96人(9.24%) |

計

1,039人

震災から3年が経過し、鮮明になりつつ二極化

村に戻る

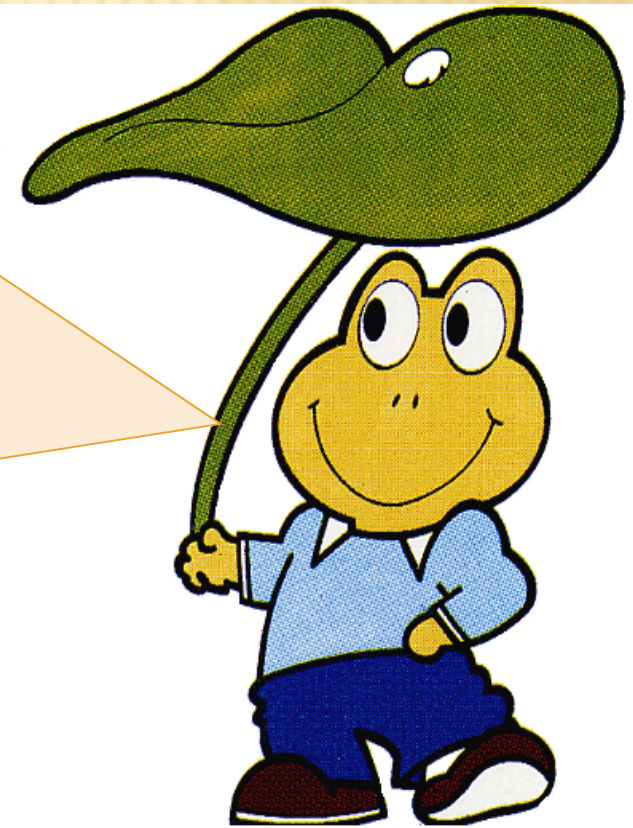
村に戻らない

まとめ

- ① 村に住み続ける誇りや意義をどう取り戻していくか。
- ② 補償させることは重要だが、それ以上に生きる意欲や目標を見失わないこと。
- ③ 短期的・集中的に投資。
- ④ 「戻る」「戻らない」の対立構図を生み出さない
- ⑤ 避難者のモラルだけでは解決できない
- ⑥ 自治体として存続できるのか？

川内村はこれまで多くの皆様にご支援をいただきました。感謝の気持ちを忘れることなく、復興と新しい村づくりに邁進していくことが、皆様に対するご恩返しではないかと思っております。

**引き続き、皆さま方のご支援とご協力をお願いいたします。
ご静聴ありがとうございました。**



自然の村長 モリタロウ くん